第19講　接続助詞・「て」の識別

PART1　接続助詞の働き・ば

接続助詞（ば・とも・ど・ども・て・で・つつ・に・を・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★**順接**＝前に述べたことが、予想通りに後ろの内容に続いていく表現形式。

（例）熱がある**ので**、学校を休んだ。

★**逆接**＝前に述べたことに対して、予想外の結果がくる表現形式。

（例）熱がある**けれど**、学校に行く。

★**確定**条件＝既に成立していること。

「順接」＝～ので・～ところ・～といつも

「逆接」＝～けれど

★**仮定**条件＝「仮に成立したら」と決めて、後ろに続ける。

「順接」＝もし～ならば

「逆接」＝たとえ～としても

★「ば」の用法＝「　　接」

●「　　形」＋ば＝　　条件（　　～　　）

（例）出でていな**ば**誰（たれ）か別れの難（かた）からむ

●「　　形」＋ば＝　　条件

- 原因・理由＝（　　・　　）
- 偶然＝（　　・　　）
- 恒常＝（　　）

（例）時世（ときよ）経て久しくなりにけれ**ば**、その人の名忘れにけり。

天の原ふりさけ見れ**ば**春日なる三笠の山に出でし月かも

翁、心地あしく苦しき時も、この子を見れ**ば**苦しきこともやみぬ。

問一　「あればこそ」の文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「あり」の未然形＋逆接確定を表す接続助詞「ば」＋詠嘆の間投助詞「こそ」
イ　動詞「あり」の未然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ウ　動詞「あり」の已然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
エ　動詞「あり」の已然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
オ　動詞「あり」の未然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の副助詞「こそ」

問二　「知らぬどちも、心静かに求(と)めゆかば、…」の傍線部の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　知らない者同士であっても、心静かに互いを理解したので
イ　教養がない人たちでも、落ち着いて物事を考えたので
ウ　無知な人たちでも、もし冷静に道を求めてゆくならば

問三　「人げなくおぼえなどせしかば、いかにせましと思ふ折々もあれど」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

ア　もし自分が相手にされていなかったら、どうしようかと考えたことも時々ありましたが
イ　もし自分が相手にされていなかったとしても、何とかしたいと考えたことが時々ありましたが
ウ　自分が相手にされていないように思われたりしたので、どうしようかと考えたことも時々ありましたが
エ　自分が相手にされていないように思われたりして、何とかしなければと考えたことも時々ありましたが

問四　傍線部「ば」の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

「いづらやいづら」とてはしり出でて見給へば、藍摺（あゐずり）の直垂（ひたたれ）に折烏帽子（えぼし）着たる男、縁（えん）に寄りゐたる…

ア　確定条件で、「ば」の前後の事態が偶然の関係で結ばれている。
イ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が偶然の関係で結ばれている。
ウ　確定条件で、「ば」の前後の事態が原因・理由と結果の関係で結ばれている。
エ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が原因・理由と結果の関係で結ばれている。
オ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が常にそうなる関係で結ばれている。

問五　傍線部「ば」と意味用法が同じものを、次の中から選べ。

大江山いくのの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

ア　柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
イ　いと幼ければ籠に入れて養ふ
ウ　そのこと果てなばとく帰るべし
エ　名をばさぬきのみやつことなむ言ひける
オ　花咲かばうれしからまし

第19講　PART1　確認問題

① 接続助詞を次の中から一つ選べ。

ア し　イ て　ウ の　エ や

② ア～オに含まれる「ば」の中で、他と異なる用法のものを次の中から選べ。

ア のたまはすれば　イ 明けぬれば　ウ 近ければ　エ あらば　オ 聞こゆれば

③ 「夜ごとに人をすゑてまもらせければ、いけどもえ逢はで帰りけり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア ので　イ としても　ウ ならば　エ けれども

④「まして龍を捕らへたらましかば、又（また）こともなく、我は害せられなまし。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の未然形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の已然形＋順接の仮定条件を表す接続助詞「ば」

イ　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の連用形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の未然形＋順接の確定条件を表す接続助詞「ば」

ウ　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の未然形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の已然形＋順接の確定条件を表す接続助詞「ば」

エ　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の連用形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の未然形＋順接の仮定条件を表す接続助詞「ば」

⑤「京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　都では見られない鳥であったとしても

イ　都では見られない鳥であったならば

ウ　都では見られない鳥であるので

エ　都では見られない鳥であったけれども

第19講　PART1　解答

問一　エ
問二　ウ
問三　ウ
問四　ア
問五　イ

第19講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 選択肢の中で接続助詞は「て」のみ。よって、イが正解。

② エのみ上が「未然形」で仮定条件。他は全て上が「已然形」で確定条件。よって、エが正解。

③ 上に過去の助動詞「けり」の已然形「けれ」があるので、順接の確定条件で訳す。よって、正解はア。

④ 「たり」の接続と、「ば」の上に来る語の活用形による意味の違いを考えるとよい。「捕らふ」の活用形が「未然形」と「連用形」に分かれているが、完了の助動詞「たり」の上は連用形。よって、アとウは削る。残った選択肢で「ば」の文法的意味が確定条件か仮定条件かに分かれるが、上に「未然形」が来る場合は「仮定条件」。よって、正解はエ。

⑤ 「なれ」は断定の助動詞「なり」の已然形。上に已然形が来るときの「ば」は順接の確定条件。「〜ので」という訳ができる。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② エ　③ ア　④ エ　⑤ ウ